

# 大島 匡史朗 Kyoshiro OSHIMA

SnC代表、振付家、ダンサー。スイス、バーゼルバレエ学校卒業後、同国、Ballet Junior de Genèveに所属。アレクサンダー・エクマン、ホフェッシュ・シェクター等、世界的に有名な振付家の作品を踊り経験を積む。帰国後、企画団体SnCを設立。主催公演、他分野とのコラボレーション、ワークショップの企画等、様々な活動を行う。個人でも振付家をメインに活躍しており、2019年には福岡県・サザンクス筑後・九州芸文館等主催の「筑後ダンスプログラム」に作品提供、好評を得た。学校等へのアウトリーチを行う団体Dancing Peopleとしても活動中。

所属カンパニー SnC  
ホームページ <https://snc-contemporary-dance-project.tumblr.com>  
連絡先(担当) 大島匡史朗  
E-mail [snc.contemporarydanceproject@gmail.com](mailto:snc.contemporarydanceproject@gmail.com)  
在 住 地 福岡県福岡市  
出 身 地 大分県日田市



Photo: Yuval Moyai

## 活動歴・受賞歴

○活動歴  
(2011年) Ballet Junior de Genèveにて、「Inside yourself」振付  
(2016年) (公財) 日本バレエ協会主催「全国合同バレエの夕べ」にて、「Eat me, Eat Me」振付  
(2019年) 福岡県・サザンクス筑後・九州芸文館等主催「筑後ダンスプログラム2019」にて、「うつろう」、「骨まで食べれる」(市民公募型)振付  
(2020年) (公財) 筑後市文化振興公社主催「夏のちょこっとフェスティバル」にて、「月が出た」(市民参加型)振付  
(2021年) (公財) 福岡市文化芸術振興財団・福岡市主催「ダンスセレクションinアートカフェ」にて、「静寂は怒る」振付。クリエイティブ・ラボ「anno lab」とコラボレーションし、デジタルアート作品「窓がひらいている」制作。  
(2022年) 「anno lab」とAIを使ったダンスの拡張を目的とした作

品「The Place of Us」共同制作。  
(2023年) Asia-Europe Cultural Festival2023 (シンガポール)にてTeet Kask振付「The Golden Temple」主演  
(2024年) エストニアにてTeet Kask振付「The God and The Devil」主演、同国にて「静寂は怒る」再演  
(2025年) エストニアにてTeet Kask振付作品に引き続き出演。

○受賞歴  
(2005年) Youth America Grand Prixにてワシントンキープバレエアカデミーよりスカラシップ受賞  
(2006年) バレコン福岡男子ジュニアの部 4位受賞  
(2007年) NBAバレエコンクールコンテンポラリー部門 3-2位受賞

## ワークショップ歴

●筑後ダンスプログラム2019 (2019年) 小学生以上の市民が対

象。全6回のワークショップで、市民公募型作品「骨まで食べれる」を振付。主催：九州芸文館芸術文化交流拠点性発揮実行委員会  
●西日本短期大学メディア・プロモーション学科 (2020年) ダンス経験のある短期大学2年生が対象。5月にオンライン、12月に対面にて実施。

●福岡市立八田小学校 (2020年~2023年) 各年の小学4年生が対象。毎年担任の先生へのヒアリングを行った上で内容決定。

※2021年からは文化芸術による子供育成総合事業—芸術家の派遣事業として実施

●福岡市千代音楽・演劇練習場 (2023年) 夏休み企画として、小学生対象クラスとシニア対象クラスを実施。

●北九州芸術劇場 (2024年) 小学校1~3年生とその親または祖父母対象の親子WSと18歳以上ダンス経験不問の創作体験WSを実施。

●日本教育大学協会全国保健体育・保健研究部門舞踊研究会 (2024年) 研究会参加の大学生又は教員向けWSを実施。

## 可能なワークショップ等のスタイル

事前にヒアリングを行い、目的や年齢・条件に合わせた完全オーダーメイドのプログラムを実施します。経験豊富なアーティストにアシスタントとして参加してもらうことで、ワークショップをよりスムーズに進められるだけでなく、多角的にプログラムを構成することができます。

### ○実施条件

▶アシスタントの有無：1名 ▶参加適正人数：応相談 ▶1日の実施可能回数・時間：応相談 ▶必要機材：可能なら、PC等を接続できるスピーカー、マイク2つ、ホワイトボード等  
以下は過去の実施例です。

### アウトリーチ

#### ①みんなで踊る「おでんダンス」

80名ほどの大人数で実施。参加者をグループ分けしておでんの食材を割り当てて、個人・グループ・全員という3要素を組み合わせる全員で踊る1つのダンスを作り上げる。

②絵や書からダンスを作って発表想像力を働かせながらウォームアップで身体を動かした後、少人数のグループを作り、それぞれに絵や書などが写っている写真を渡す。グループ毎に話し合いながらダンスを作り、最後に発表する。

### 公募ワークショップ

公募ワークショップ参加者と一緒にゲーム形式でウォームアップを行なっていき、動きを一緒に作る。多様な振付家と協働してきた経験から具体的な例を提示したり、途中で座学も挟みつつ、それぞれが作りやすい方法を一緒に探してオリジナルの動きを作り、最後に発表する。それぞれの動きの作り方の模索と他者の動きの鑑賞をセットにしたプログラム。

## この事業で可能な公演スタイル

### レポートリー作品

#### ①『うつろう』

2019年初演。日本の四季と人生における四季をコンセプトに演出された、東洋と西洋の様式の入り混じる舞踊作品。空間全体が幕によって区切られ、シーンのコンセプトに応じて変化を見せる。

▶上演時間：30分 ▶出演者数：ダンサー 5名、一般市民5~10名 ▶同行スタッフ：制作1名 ▶現地スタッフ：舞台監督1名、音響1名、照明1名、照明仕込み複数名、大道具・小道具複数名 ▶上演環境：(1)会場の広さ・形状：ホール14.5m×13.2m程度(初演時。ホールのサイズは

適宜対応。) (2)リノリウム：黒 (3)必要機材、舞台セット：ムービング6台。大黒幕(上下)。パトーン~舞台床面までの長さがある黒袖幕6枚。高梯子1台。姿見鏡1台。椅子1脚。箱馬(黒)2個。階段(黒)1つ。紙吹雪。業務用扇風機(紙吹雪用)。▶その他：一般市民に必要なリハーサル回数は最低5回

### 市民参加作品

#### ①『ミルク』

「積み重なるもの」をテーマに、出演者との対話形式で進められていく作品。出演者の過去、身体の特徴、性格等をインタビューで明らかにしていき、最後に出演者自身の踊りを鑑賞する。

▶上演時間：35分 ▶出演者数：ダンサー1~8名、影ナレ1名 ▶同行スタッフ：制作1名 ▶現地スタッフ：舞台監督1名、音響1名、照明1名、照明仕込み1名、アシストいれ1名 ▶上演環境：(1)会場の広さ・形状：特に希望なし(2)リノリウム：あれば黒希望。(3)必要機材、舞台セット：マイク2個